

「赤木名小学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立赤木名小学校

2 学年・人数

1年生～6年生 計116人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年9月, 10月 赤木名小学校体育館及び校庭

(2) 発表の日時・場所

令和2年10月4日 赤木名小学校校庭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

赤木名八月踊り (あかきなはちがつおどり)

(2) 由来

八月踊りは, 奄美の各シマ (集落) に伝わる男女が唄をかけ合いながらの踊りである。歴史性については, はっきりとした記録はないが, 唄の歌詞などから琉球服属時代ではないかと言われている。奄美のノロ (神様) の祭りが集団踊りへ発展した, 悪霊払いの火の神祭り, 豊年感謝・祈念の祭り, 先祖を偲ぶ祭りなど, 様々な祭りを由来として現在に伝わっている。

(3) 構成等

八月踊りは, 基本的に「新節 (アラセツィ)」(旧暦最初のヒノエの日), 「芝挿し (シバサシ)」(新節から七日目のミズノエの日), 「ドゥンガン」(芝挿しの後のキノエネの日) の3回に分けて踊られていたが, 現在では, ほとんどの集落が一回で終わっている。

踊りの構成として男女別に列を作り「ほこらしゃ」を踊りながら, 門から家に入り, 男女分かれて一つの輪を作る。その後, 座り唄 (イリウタ) を唄いながら踊りが始まり, 赤木名地区では, 最後に「浜千鳥 (ハマチジュラ)」を踊るようになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

赤木名八月踊り保存会の方々が, 赤木名っ子タイム (総合的な学習の時間) や家庭庭教育学級で, 子供たちや保護者へ伝承活動を行っている。赤木名っ子タイムでは, 1年生から6年生まで, 学年に応じて指導してもらい, 低学年は唄を覚え, 中高学年は, 唄の歌詞の意味や踊り方まで習い, 特に6年生の中には自分たちでツイジンを打つまでになっている。家庭庭教育学級では, 親子で参加し, 母親のみでなく, 父親の姿も見られ, 様々な世代が楽しく踊る姿も見られる。家庭庭教育学級では, 学校の学習ではやらない踊りも習い, 難しいながらも, 見よう見まねで踊りながら, 笑顔が見られた。

運動会当日も, 保存会の方にたくさん参加していただき, 踊りの中心で, 全校での八月踊りをリードしてくださった。「ほこらしゃ」で入場し, 「赤木名観音堂」, 「さんだまけまけ」, 「浜千鳥 (ハマチジュラ)」を踊り, 退場の際は, 自然と「おぼこり」を唄いながら退場する姿も見られた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

貴重な文化財である赤木名八月踊りを継承していくためには、若い世代に伝えていくことが大切であると考えている。

一つは、ふるさと教育を学校経営の柱と位置付け取り組んでいる。赤木名っ子タイムや運動会などの他にも、普段から八月踊り唄に触れてもらうために、朝のボランティアや清掃時間には、校内放送で、保存会の方々が歌う八月踊り唄を流している。この放送は、校庭にも流しているため、地域（校区）の方からも「朝から元気が出る」など好評を得ている。この他にも八月踊りやシマクチなどの掲示物を充実させ、ふるさとの文化を意識できるようにしている。

もう一つは、保存会や地域の方々との連携である。日頃から管理職を中心に地域行事に参加したり、八月踊り保存会に入会し練習したりし、学校の願いを伝え、保存会や地域の方の思いを承わるようにし、連携を密にしながら、伝承活動に取り組んでいる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

1 赤木名っ子タイム
・2年生への紹介



赤木名っ子タイム
6年生のリズムに合わせ



家庭教育学級
様々な年代が参加



秋季大運動会
全校での八月踊り



8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年児童】

たくさん踊れるようになって楽しかった。真太郎兄のようにハト笛を吹けるようになりたい。

【保存会から】

学校が取り組んでくれているので助かる。高学年は何年もしているので、結構覚えてきている。自分たちで打ち出しまでできるようになれば最高だ。

【地域の方から】

八月踊りは、奄美の宝だから、いつまでも残してほしい。学校の放送が一日2回聞こえてくるので、コロナで練習ができなくても元気が出る。